

## 令和5年度個別学力試験問題

## 小 論 文

## (福祉健康科学部)

コース名	共通問題	コース別問題	解答時間	配点
理学療法コース	1～2 ページ	3～5ページ	90分	300点
社会福祉実践コース		6ページ	90分	300点
心理学コース			60分	100点

理学療法コースは共通問題 **1** と理学療法コースのコース別問題 **2** を解答してください。

社会福祉実践コースは共通問題 **1** と社会福祉実践コースのコース別問題 **3** を解答してください。

心理学コースは共通問題 **1** のみを解答してください。

## 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 解答は解答用紙の指定された解答欄に横書きで記入してください。
4. 試験時間中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁及び汚損等がある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

## 前期日程(共通問題)

1 次の文章は「地域再生」について述べたものです。これを読んで、あとの問題に答えなさい。

地方ということが取り上げられるとき、すぐに出てくるのが「シャッター通り」や「限界集落」といった、暗い話題です。もちろん多くの地域が、以前のような活気を失っている現実を考えると、その事実<sup>まじ</sup>に目を背けることはできません。

しかし同時にもう一つ忘れてはならない事実もあります。それは多くの地域において、何とかしたいという気持ちで立ち上がっている人たちも、実際にはたくさんいるということです。住民運動やNPOなどの活動、企業の地域貢献や、行政による取り組みなど、地域を元気にしたいと活動している人たちは、今も少なくありません。むしろ誰も何もしていないといった地域など、ほとんどないでしょう。

ただ頑張っている人が地域にたくさんいるという事実と同時に、印象深いのは、地域経済論を専門とする橋川武郎さんが、釜石で話されたひとことです。

「釜石に希望はある。でも、もっとあるはずだ。まだつながっていない」。

狭い範囲の地方なら、そこに住む人々は地方のことは十分よく知っている、なんとなく思いがちです。しかし、地方のことを地方の人は、すべてよく知っているという前提は、多くの場合、成り立たないというのが、率直な印象です。知っているようで、自分の住んでいる地域のことをよく知らない。だから一所懸命、地域のために活動している人たちのことも当然知らない。知らないまま、駄目だと勝手にあきらめているのです。

さらには英雄的に頑張っている人も、自分たちの活動に手一杯で、他の懸命にやっている人たちと手を結んで何かをやるということも、実際には起こりにくいのが現状です。

地域の希望再生に向けた第三の条件<sup>注1)</sup>は、地域の内と外、さらには地域内同士での人と人とのつながり(人的ネットワーク)を広げていくことです。ここでも第二章で紹介した「ウィーク・タイズ」<sup>注2)</sup>が重要になってきます。生活する場所がちがえば、それぞれちがう情報を持っています。また同じ地域に住んでいても、仕事や環境がちがえば、それぞれちがう経験を重ねています。そんなお互いのちがいをもち寄って共有するところから、新しい希望のある発想や可能性が生まれてくるのです。

ウィーク・タイズは、単なるコネクション(人脈作り)ではないということも述べました。ウィーク・タイズは、知り合いを増やすことだけに意味があるわけではありません。そこでは多くの新しいヒントが聞けると同時に、自分とちがった人生経験を持っている人に、自分のこれまでやってきたことを話す機会が必ず生まれるものです。

自分とちがう世界の人に自分のことを伝えるのは、簡単ではありません。自分を良く見せようとして自慢ばかりしていたり、反対につまらない自己卑下<sup>ひげ</sup>をしているばかりでは、関係を深めることはできません。自分のこれまでの歩みを、正直にとつとつと話す。そうするうちに、自分で

自分をふりかえり、気づきを得ることもあります。そのふりかえりや気づきこそが、自分の奥底に眠っていた希望に出会うことにつながるのです。

地域の再生を語る時、「他所者<sup>よそももの</sup>、若者<sup>わかもの</sup>、馬鹿者<sup>ばかもの</sup>」が大切といわれたりします。いずれも、これまでの常識を覆<sup>くつがえ</sup>す新しい力が、地域の再生のきっかけとなることを表すものです。上手いことをいうなあ后感心します。

しかしその一方で、地域に希望をもたらす本当の主役は、他所者ではなく、その地域に毎日暮らし、これからも暮らし続ける人々です。そこには、年齢的にはけっして若いとはいえない人もたくさんいます。その多くは、馬鹿者でもなければ利口者でもない、ごく普通の人です。そんな人たちが、ゆるやかなネットワークを地域の内外に築こうとすることで、希望はつながっていくのです。

注1)

第一、第二の条件は、本論の前において論述されている

注2)

ウィーク・タイズについて、著者は本論の前において以下のように説明している

ウィーク・タイズは、米国の社会学者であるマーク・グラノヴェッターが提唱した転職についての考え方です(グラノヴェッター 一九九八)。

グラノヴェッターによれば、自分と異なる情報をもっている人とのゆるやかなつながりが、転職を成功させる条件として重要だということです。この自分とちがう環境にある人との、たまに会う程度のゆるやかなつながりが、ウィーク・タイズです。

(出典：玄田有史、『希望のつくり方』、岩波新書、2010年より一部改変)

問 「地域の希望再生」に関する著者の考えを説明した上で、それに対する「地域再生」についてのあなたの考えを600字以内(句読点を含む)で述べなさい。

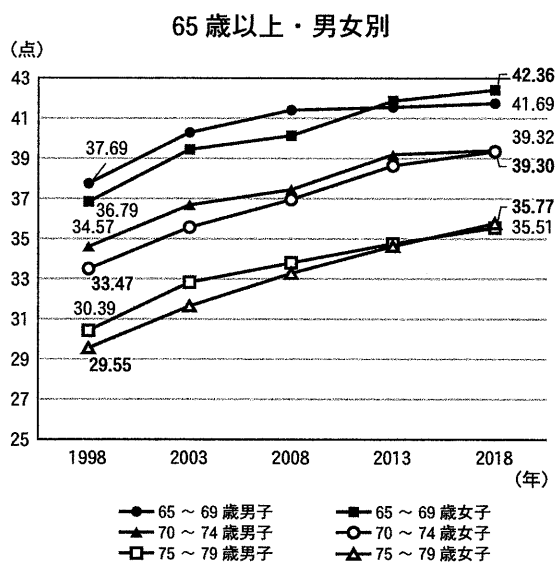
## 理学療法コース(コース別問題)

2 図1～図3は、厚生労働省より公表された令和2年版厚生労働白書(平成30年度・令和元年度厚生労働行政年次報告)にて示されたデータである。

図1は新体力テストの合計点の推移、図2は推計患者数の推移及び見通し、図3は平成の30年間の社会保障給付費<sup>※1</sup>対GDP<sup>※2</sup>比等の推移を示している。これらのデータを踏まえて、我々が置かれている状況を分析し、今後の課題について、500字以内(句読点を含む)で考えを述べなさい。

※<sup>1</sup> 社会保障給付費とは、高齢、遺族、障害、労働災害、保健医療、家族、失業、住宅、生活保護その他のいずれかに対する制度にて給付された費用であり、国立社会保障・人口問題研究所が、国際労働機関の基準に基づいて毎年推計・発表しているもの。給付費のみを含み、管理費等は給付総額には含まれない。

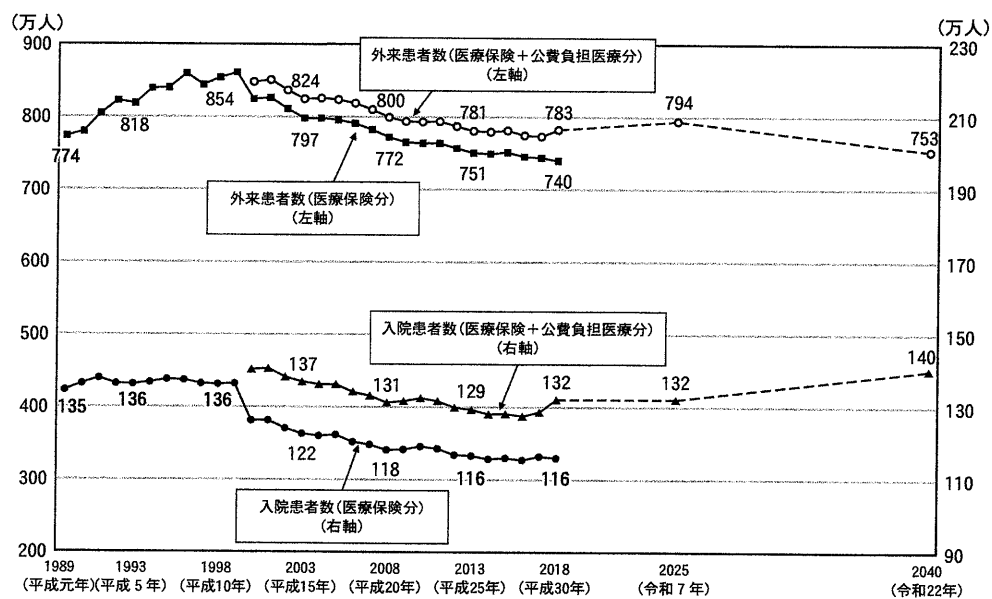
※<sup>2</sup> GDPとはGross Domestic Productの略であり、国内総生産のことを指す。一定期間内に国内で産出された物やサービスの付加価値の総額をいう。



資料：文部科学省「平成30年度体力・運動能力調査」  
 (注) 合計点が高いほど体力・運動能力が高いことを示す。

図1 新体力テストの合計点の推移

(「令和2年版厚生労働白書—令和時代の社会保障と働き方を考える—」, 厚生労働省, 2020年10月より抜粋)

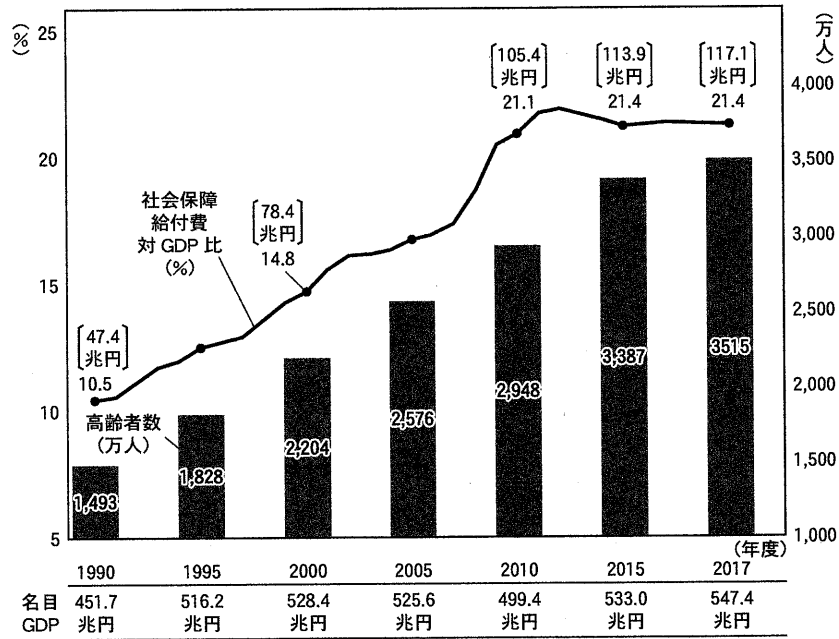


資料：2017年以前については「医療費の動向」であり(医療保険分に関しては2018年まで)、2018年以降については「2040年を見据えた社会保障の将来見通し(議論の素材)(内閣官房・内閣府・財務省・厚生労働省、平成30年5月21日)」である。なお、医療保険+公費負担医療分の1999年以前はデータが存在しない。

- (注) 1. 医療保険分、医療保険+公費負担医療分における推計患者数の算出方法は以下のとおり。  
 ・入院については、受診延べ日数を年間日数で除したもの  
 ・外来については、受診延べ日数を270で除したもの。なお、270は、税・社会保障一体改革時の社会保障の給付と負担の見通しにおいて推計した医療機関の稼働日数であり、過去については詳細が不明であることに留意が必要。  
 2. 2000年以前は介護保険制度がないなど、医療を取り巻く環境が大きく異なること、また、平均在院日数も大きく変化しているなど、様々な環境の変化があることに留意が必要。

図2 推計患者数の推移及び見通し

(「令和2年版厚生労働白書—令和時代の社会保障と働き方を考える—」, 厚生労働省, 2020年10月)



資料：国立社会保障・人口問題研究所「社会保障費用統計」による実績値。  
 ※地方単独事業を含まないケース

図3 平成の30年間の社会保障給付費対GDP比等の推移

(「令和2年版厚生労働白書—令和時代の社会保障と働き方を考える—」, 厚生労働省, 2020年10月)

## 社会福祉実践コース(コース別問題)

**3** 図1は、60歳以上の男女2,435人に、世代間の交流を促進するために必要だと思うことを尋ねたアンケート結果(複数回答)である。図2は、同じ回答者に若い世代との交流の機会への参加意向を尋ねたアンケート結果(択一回答)である。

このアンケート結果から、世代間の交流を促進するためにはどのような取り組みが必要か、具体的な取り組み策と実施する上での課題について、あなたの考えを500字以内(句読点を含む)で述べなさい。

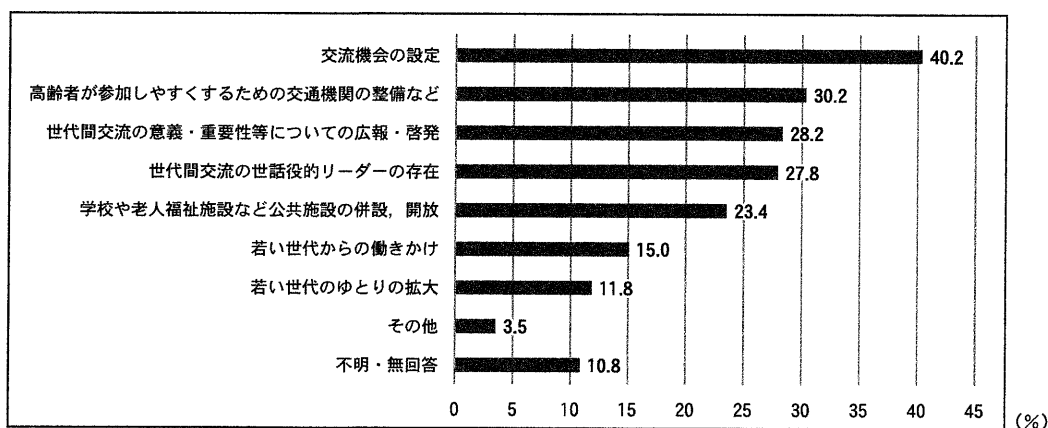


図1 世代間の交流を促進するために必要だと思うこと(複数回答)

(「高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査」(令和3年度), 内閣府政策統括官(政策調整担当), 2022年, [https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r03/zentai/pdf/2\\_8.pdf](https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r03/zentai/pdf/2_8.pdf) 2022/09/14より作成)

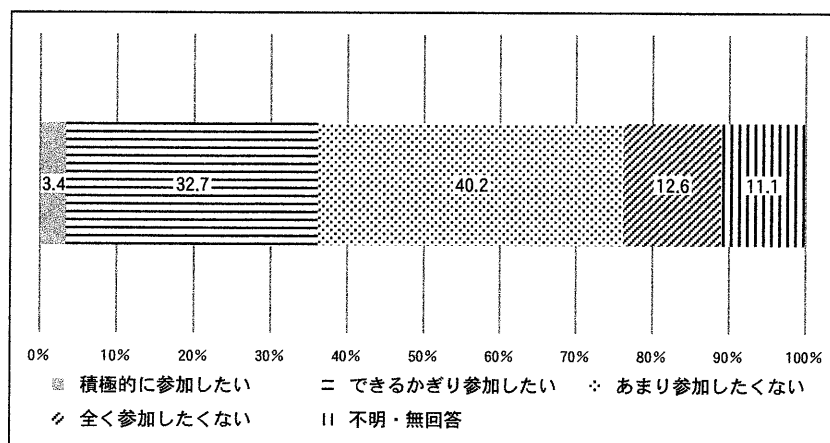


図2 若い世代との交流の機会への参加意向(択一回答)

(「高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査」(令和3年度), 内閣府政策統括官(政策調整担当), 2022年, [https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r03/zentai/pdf/2\\_8.pdf](https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r03/zentai/pdf/2_8.pdf) 2022/09/14より作成)